

労働図書館新着情報

今月の10冊(日本十進分類[NDC]順に掲載)

<p>①シバマリヤム・ジョージ著『女が先に移り住むとき』有信堂高文社(vi+292+xxi頁,A5判) インドネシア等からの日本の看護師受け入れ事業は、困難に逢着しているが、本書は、インドからアメリカへ、妻が看護師という専門職で先行的に移住し、夫・家族を呼び寄せた事例を、労働、家庭、コミュニティのジェンダー階層について、インサイダーの視点から評述。日本の教訓とするには、彼我の差は大きすぎるようである。</p>	<p>⑥上野加代子著『国境を越えるアジアの家事労働者』世界思想社(iv+258頁,B6判) シンガポールで住み込みで働くインドネシアとフィリピン女性家事労働者を10年近くに渡り追跡。労働者へのインタビューと観察、労働者のシェルターであるNGOへのヒアリング、出身国調査等を駆使。出国、生活戦略、アイデンティティ、NGO利用、家族関係等を総合的に分析。労働者の時系列的姿も明らかにされている。</p>
<p>②松尾睦著『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社(220頁,A5判) 「経験から学ぶ力」を分析・検討した書。優れたマネージャーへのインタビュー調査により、挑戦し、振り返り、楽しみ学ぶことが、知識やスキルの獲得を促進し、仕事への思いこどわり、他者とのつながりが、これを高める原動力となる、という。部下を育てる指導者や診断ツールにも言及、経験学習について総論的に検討している。</p>	<p>⑦脇坂明著『労働経済学入門』日本評論社(xi+186頁,A5判) 新興国におさげみ日本の国際競争力維持のため、新しい働き方が求められている。ワーク・ライフ・バランスやワーク・シェアリング、若者・女性・高齢者の働き方の実態と、それらを理解するための基礎知識の二部構成。労働経済学のテキストだが、国際比較も加え、労働問題を理論的に理解するための入門書ともなっている。</p>
<p>③小宮文人他編『社会法の再構築』旬報社(252頁,A5判) 道幸哲也教授の薫陶を受けた研究者と、北海道大学労働判例研究会メンバーによる道幸教授退官記念論文集。労働法の課題と社会保障法の課題の二部で編集。混沌・格差が渦巻く時代の中で、社会法の存在意義が問われているが、わが国が直面する集団的及び個別的労働法と社会法に関する基本的問題を理論的に考察している。</p>	<p>⑧五石敬路編『東アジアにおける都市の貧困』国際書院(252頁,A5判) (財)東京市政調査会、ソウル市立大、中国復旦大学共催の国際シンポジウム提出論文を編集。日本、韓国、中国、台湾及び上海における貧困とそれに対する社会保障政策が取り上げられている。ワーキングプアや貧困層への金銭支給のみでなく、アクティベーション等自立を促す指導導入が新興国・先進国ともに重視されてきている。</p>
<p>④高橋賢司著『解雇の研究』法律文化社(iv+353頁,A5判) 効率と正義をともに実現するため、労働法も他の社会科学との総合的研究が必要となっている。本書は、経済学者から要望が強い解雇規制の緩和について、ドイツの経験を通して実証分析するとともに、解雇の金銭解決や被解雇者の人選基準をも検討。新自由主義を批判的に考察し、解雇権濫用法理の原理的検討を試みている。</p>	<p>⑨阿部彩著『弱者の居場所がない社会』講談社(216頁,新書判) EU諸国では、貧困から社会的排除に政策的関心が移りつつあり、日本も生活資源の欠如でなく社会関係制度からの排除が問題視されるようになってきた。著者は、貧困の実態を統計に基づき報告、さらに自身のボランティア活動経験をもとに社会的つながり、役割、居場所の重要性を強調、社会のユニバーサル・デザインを主張。</p>
<p>⑤小杉礼子他編著『非正規雇用のキャリア形成』勁草書房(ix+277+iv頁,B6判) 編者たちは、正社員に比して、非正規社員の職業能力開発機会が極端に少ないことを問題視し、対策を検討。実践的な能力開発機会の提供と、職業能力評価制度の普及を提言。特に後者に関しては、関係者間の共通認識醸成の仕かけでもあり、非正規から正社員への移行支援政策でもあるジョブ・カード制度の課題を分析している。</p>	<p>⑩永松伸吾著『キャッシュ・フォー・ワーク』岩波書店(87頁,A5判) 未曾有の被害をもたらした東日本大震災から1年、生活と雇用の場を破壊され、有効な支援も届かず、立ち直るきっかけをつかみずにいる人も多い。収入獲得と社会的つながりのためのキャッシュ・フォー・ワーク(CFW)は、「仕事をつくり、あしたをつくる」ための有力な仕組みである。CFW-Japan代表を務める著者によるCFW紹介本。</p>

主な受け入れ図書

(2012年1-2月労働図書館受け入れ)

①加瀬和俊編『戦間期日本の新聞産業』東京大学社会科学研究所(iii+208頁,B5判)	②熊谷文枝編著『日本の地縁と地域力』ミネルヴァ書房(ix+261+7頁,A5判)
②法政大学大原社会問題研究所編『棚橋小虎日記(昭和17年)』法政大学大原社会問題研究所(107頁,A4判)	⑤渡辺章著『労使関係法・雇用関係法』信山社出版(xxvii+608頁,A5判)
③馬淵浩二著『世界はなぜマルクス化するのか』ナカニシヤ出版(xviii+234頁,B6判)	⑥西村佳哲著『わたしのはたらき』弘文堂(254頁,B6判)
④西川俊作著『長州の経済構造』東洋経済新報社(xviii+267頁,A5判)	⑦渡邊正裕著『10年後に食べる仕事食えない仕事』東洋経済新報社(221頁,B6判)
⑤水野和夫著『終わりになき危機』日本経済新聞出版社(536頁,B6判)	⑧鳥居里至著『会社×複業』シナジー仕事術ノート『東洋経済新報社(163頁,B6判)』
⑥林総著『つぶれる会社には「わけ」がある』日本経済新聞出版社(212頁,文庫版)	⑨山口俊一著『理不尽な給料』ばる出版(207頁,B6判)
⑦片山修著『ホンダ式一点バカ』朝日新聞出版(237頁,新書判)	⑩楠田丘編『人材社会学』産労総合研究所出版部経営書院(199頁,A5判)
⑧三宮圭著『あなたができる人が否かを決めるのは、人事部です。』幻冬舎ルネッサンス(198頁,B6判)	⑪海老原嗣生他著『日本人はどのように仕事をしてきたか』中央公論新社(310頁,新書判)
⑨岩崎馨他編著『賃金・人事制度の軌跡』ミネルヴァ書房(vii+277頁,A5判)	⑫櫻田大造著『大学教員採用・人事のカタクリ』中央公論新社(286頁,新書判)
⑩新将命著『伝説の外資トップが説く働き方の教科書』ダイヤモンド社(253頁,B6判)	⑬坂本章紀著『坂本流「就職」の教科書』日本経済新聞出版社(222頁,B6判)
⑪天野雅晴著『180日でグローバル人材になる方法』東洋経済新報社(197頁,B6判)	⑭異業種交流安全研究会著『命を支える現場力』海文堂出版(179頁,B6判)
⑫相原孝夫著『会社人生は「評判」で決まる』日本経済新聞出版社(215頁,新書判)	⑮島智智輝著『日本石炭産業の戦後史』慶應義塾大学出版会(xviii+374頁,A5判)
⑬三谷宏幸著『世界で通用するリーダーシップ』東洋経済新報社(235頁,B6判)	⑯早稲田大学産業経営研究所編『観光による復興への提言』早稲田大学産業経営研究所(129頁,A4判)

「データベース(DB)まとめて検索」のご案内

当館では、文献関係の3つのDB(論文・調査研究成果・蔵書DB)を同時に検索するサービスを提供しています。

下記URLからご利用ください。

URL = <http://oudan.jil.go.jp>

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書112,000冊、洋書28,000冊、和洋の製本雑誌21,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地:東京都練馬区上石神井4-8-23

開館時間:9:30~17:00

休館日:土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号:03(5991)5032 / FAX:03(5991)5659

利用資格:どなたでも自由に利用できます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています